

幼稚園・保育園のわらい

体を存分に動かす遊びに関心を持ち、繰り返し楽しむ
 難しいと思ったこともすぐに投げ出さずに取り組もうとする

カリキュラムNo.35・・・元気な子ども・・・

カリキュラムNo.42・・・元気な子ども・・・

よい体を動かして遊びたくなる環境の工夫
 ～運動能力調査をきっかけに～

7～10月
 花巻幼稚園

☆ 当日までの流れ ☆

各施設において、4歳児と5歳児の運動能力調査を行うことにより、園の子どもの実態を把握し、今後の保育の見直し（環境・援助）に役立てることとした。測定は年2回（1学期・2学期）。

☆ 経過 ☆

活動の流れ	園児の姿（○）・環境や援助（◎）
7月18・19日 「様々な運動に挑戦！」 【運動能力測定・1回目】 ・様々な運動に取り組む。 （園のホールで体支持、硬式テニスボール投げ、立ち幅跳び） （小学校の校庭で50m走）	◎運動能力調査実施要項に沿ってホールにラインテープを引いておく。 ○いつもと違うホールの様子に興味を示し、ラインにそって跳んだり走ったり、ボールを転がしたり…様々な遊びを始め、友達のおもしろい動きに子どもたちが集まって来る。 ○教師の話聞き、測定に参加する。友達の動きを見て自分の番を楽しみにワクワクしている子が多かったが、少し緊張した表情で待つ子もいる。 ○測定終了後、自分達で集まって跳んだり投げたりと繰り返し取り組み、楽しんで競争を始める姿もある。 ◎小学校の校庭を借用する。 ○校庭で、ラインにそって思いきり走る心地良さを味わい、「もっと走りたい。」と繰り返しかけっこを楽しむ。
9月25日より 小学校校庭で 運動会練習 開始 10月5日 運動会	◎小学校の校庭を借用する。 ◎競技の中に、運動能力調査で子どもたちが経験した動きやコーディネーショントレーニングで教が学んだ動きを取り入れる。 ○繰り返し、遊びの中で体得した動きを楽しんで行う。 （凸凹マットのでんぐり返し、巧技台によじ登り遠くにジャンプ、紅白玉的当て、ゴム跳び、ゴムの蜘蛛の巣渡り、等）
10月30日 「もう一度挑戦！」 【運動能力測定2回目】	○「前もやったね。」「やり方、覚えているよ!」「今度は負けないからね!」等と、自ら靴を脱いで並び始める子が多い。楽しかった経験が意欲や競争心につながっている。 ◎その子の意欲に合わせながら声をかける。前回の記録を伝え、刺激をする。



☆ 考察 ☆

- ・運動能力調査の実施要項に添いながら測定の環境設定をしたところ、それが子供たちの興味関心をそそり、様々な体を動かして遊びたくなる環境のひとつとなった。自ら体を動かしたくなる環境や援助を保育者自身が意識して工夫していくことが重要なポイントになることが分かった。
- ・普段やらない動き、難しそうな動きを教師や友達が繰り返し楽しそうにやっている姿を見て、自分の番になった時に思い切ってやってみようとするきっかけになった。また、それがやってみたらできた、面白かったという自ら動かしたくなる動機付けになり、次はもっとやるぞ!という意欲につながった。また、測定後、ラインなどの空間を利用して自分たちで体を動かす遊びを創り出す姿も見られ、運動能力調査は実態把握に留まらず、やる気を引き出す活動であった。
- ・測定から子どもの意外な面を発見することができ、認めていくことで自信となっていた。また、子ども自身も測定後の遊びをとおして自分の体の動きやバランスに気づき、自ら意識をして様々な動きを楽しむ姿が見られた。
- ・校庭をお借りしたことで、学校の広い空間の楽しさを味わう経験となっている。